

靴の歴史散歩

皮革産業資料館 常任委員 稲川 實

第一回内国勸業博覧会に靴を出品し、褒賞を得た福島縫太郎（「靴の歴史散歩」参照）の名を、『東京名工鑑』から見出すことができなかった。これについては、褒賞授賞者の中から、さらに上位の賞が設定されていた、と解釈すれば、納得できるのではないだろうか。

名工鑑に掲載されている16名の靴工は数に差はあるものの、業祖・西村勝三の造靴場と、浅草の弾直樹靴製造所の靴工によって独占されている。

幸いに両社の靴工長が、共に名工の栄誉を受けているので、草創期の靴工を代表する意味で、掲載事項を転記し、顕彰の紙碑に代えたいと思う。

「京橋区築地一丁目十番地

本店工長 靴工 依田六蔵 二拾四歳

製造種類 靴類一式

博覧会出品 内国博覧会へ西村勝三ノ出品セシ靴ヲ製造シタリ

開業及沿革 西村勝三造靴場創立ノ際該場ニ入り教師・藩浩（註・創業時の製靴教師で清国人）ニ就テ十五歳ヨリ習学スルコト一ケ年 マタ蘭人・レマルシャン

（註・日本靴業の恩人で、後に帰化し磯村姓となる。「靴の歴史散歩」～参照）氏ニ就テ学ブコト一ケ年半ニシテ 教師ノ手ヲ離レ ソノ後該場ノ長トナリ 数多ノ生徒ヲ教授シテ今ニ至レリ」とある。

弾直樹靴製造所の靴工長については、以下の通りである。

「靴工 篠原戈次郎 三拾二歳

製造種類 靴一式

博覧会出品 内国博覧会へ弾直樹ガ出品セシ長靴ヲ製造セリ

開業及沿革 二拾二歳ノ時ヨリ弾直樹靴製造所長村上爲三郎ニ就テ三ケ年間修行シ 明治九年同製造所ノ工長トナリ日々該所へ通勤 弟子七拾余人ヲ使役シ工事漸々盛況ニ赴ケリ」とある。

これを読むと、靴産業史に出てくる歴史上の人物が、いとも易やすと登場し、100余年の経過を感じさせないばかりか、まるで昨日のこのように思わせてくれるから、うれしくなる。

西村勝三(桜組)の会社資料は、神田の西村記念室と橋場の皮革産業資料館に収蔵されていて、そこそこに遺されているといつてよい。それに対し、弾直樹靴製造所の会社資料は、残念ながら皆無に等しい。

思い巡らせば、靴産業資料の蒐集も40年になる。せめて領収書一枚、納品書一枚でもお願いながら、古書市通いに夢を託しているが、残念ながら今だにその出会いはない。



第三回内国勸業博覧会（1890年）の錦絵